

総務政策常任委員会県内調査報告書

令和2年11月12日(木)に、「神奈川県分庁舎(新分庁舎)」、「あしがり郷 瀬戸屋敷」及び「道の駅足柄・金太郎のふるさと」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 嶋村 ただし 殿

総務政策常任委員会委員長 山口 貴裕

# 総務政策常任委員会県内調査報告書

令和2年11月12日（木）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 神奈川県分庁舎(新分庁舎)、あしがり郷 瀬戸屋敷、道の駅足柄・金太郎のふるさと
- (2) 出席委員 山口(貴)委員長、斉藤副委員長、加藤(ご)、田中(信)、綱嶋、梅沢、竹内、脇、古賀、松崎、佐々木(正)、青山、楠の各委員
- (3) 調査日 令和2年11月12日(木)

## 2 神奈川県分庁舎(新分庁舎)

### (1) 調査目的

県では、大規模地震・津波発生時における本庁機能の確保のため、平成25年2月に策定した本庁庁舎耐震対策基本構想に基づき、平成26年度から本庁4庁舎の地震・津波対策工事を行っている。このうち分庁舎は、耐震性能が低く改修が困難であったため、平成28年12月20日から建て替え工事を進めてきた。しかし、令和2年当初以後の新型コロナウイルス感染症の影響により、工期の終了時期が、当初の令和2年9月30日から11月16日まで延伸されたことから、現在の整備状況について視察することで、委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

#### ア 工事の進捗状況

旧分庁舎の除却工事を平成29年5月に完了し、同年6月から新築工事を開始した。平成29年度中には土台部分となる基礎工事を終え、平成30年度からは庁舎部分の建設に着手した。

令和元年度中には、地上13階、地下1階の庁舎部分のおおむね7割程度が完成していたが、令和2年4月7日に本県を含む7都府県に、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が発令されたため、同月27日から工事を一時中止した。

その後、工事現場における新型コロナウイルス感染症対策を施した上で、令和2年5月7日に工事を再開した。現在の進捗状況から、当初の9月30日の予定から1か月半程度の遅れとなるが、4日後の11月16日には完了予定である。

#### イ 新分庁舎の概要

新分庁舎は、地下1階、地上13階の建物に伝わる地震の加速度を大幅に減縮する免震構造を採用した鉄骨造で、一部鉄骨鉄筋コンクリート造りである。また、最上階(13階)に電気室、機械室、発電機室を設置し、津波対策としている。入庁予定局は、2階から5階までが福祉子どもみらい局、6階から11階は教育局である。

また、1階にカフェ、12階にはレストランを設置する予定で、令和2年3月

下旬から5月下旬にかけて、プロポーザル方式により運営事業者を募集し、申込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての申込み事業者から辞退届が提出されたところである。今後は感染症の状況を見ながら再募集をかけていくが、来年4月の供用開始時には、カフェやレストランのスペースは空室となる予定である。

(3) 主な質疑応答

**質 疑** 4日後の令和2年11月16日に新分庁舎の引渡しを受けた後、すぐに県庁の業務を行うことができるのか。

**応 答** 引渡しを受けた後に、執務室として使用するための準備をする。具体的には、情報システムや電話線の接続、机などの什器の搬入を行い、来年4月から執務室として使用できるように進めていく。

**質 疑** ほかの県庁舎とは異なる新しい機能などはあるか。

**応 答** レストランスペースをはじめ、執務スペースでも窓を大きくしているため、眺望がよい。窓を開けなくても換気ができるように、柱の部分に換気口を設置している。また、11階には外に出ることのできるテラスを設置している。

**質 疑** 前回の常任委員会では、コロナ禍のためレストラン等の事業者は全て辞退したとのお話を伺ったが、現在の進捗状況はどうか。

**応 答** 新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況になっており、事業者の再募集についても、状況を見ながら対応していきたい。また、ほかの用途で使うかどうかとも同時進行で検討していきたい。

**質 疑** 県庁職員等が共用で利用できる会議室は、幾つ設置される予定か。

**応 答** 定員20名前後の共用会議室を11階に4部屋、地下1階に2部屋の合計6部屋設置する予定である。今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、その対策部署のための執務スペースとして利用する可能性もある。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

神奈川県分庁舎(新分庁舎)の現在の整備状況を視察することにより、大規模地震・津波発生時における本庁機能確保のための設備や、これまでの他の県庁舎にない機能等を確認することができた。

以上のように、神奈川県分庁舎(新分庁舎)における庁舎の建て替え工事に関する取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

### 3 あしがり郷 瀬戸屋敷

#### (1) 調査目的

あしがり郷瀬戸屋敷は、開成町が、江戸時代の名主であった瀬戸家の築300年以上の古民家を「みんなの我が家」をコンセプトに再生、整備した施設である。施設内では、施設の指定管理者である民間企業が、近接する酒蔵での自家醸造を再開させるとともに、令和2年9月6日には新たな交流施設「atelier hacco (アトリエハッコ)」がオープンするなど、地域活性化の拠点となっている。

県では、県西地域活性化プロジェクト推進事業（県と市町が共同して策定した地域再生計画）により、開成町が交付を受けた地方創生推進交付金を活用して新たな交流施設等の整備事業を実施している。本施設は、県西地域活性化プロジェクトの「未病いやしの里の駅」への登録施設である。

県西地域の活性化を図る地域の取組について、本施設を視察することで委員会審査の参考に資する。

#### (2) 主な説明項目

##### ア 施設の概要

###### ・設置までの経緯

平成12年度	開成町へ瀬戸屋敷が寄贈される
平成13年～16年度	瀬戸屋敷の整備工事
平成17年5月27日	あしがり郷瀬戸屋敷として開園
平成29年4月1日	指定管理制度導入
平成29年10月7日	café hacco (カフェハッコ) がオープン
令和2年9月6日	atelier hacco (アトリエハッコ) がオープン

###### ・設置費用

7億40万円

###### ・設置目的

古来から地域の名主を勤めてきた瀬戸家の屋敷で、足柄の古い地名として用いられていたあしがりという言葉施設名に付した。約1,800坪の敷地内には、茅葺屋根の主屋、土蔵、水車小屋などがある。

田園空間の自然や農産物及び文化とのふれあいを通じて、来訪者と開成町民が交流を深めることにより、観光振興及び町民の学習や地域活動の拠点として機能することを目的として開園した。

###### ・年間入園者数の推移

平成28年度	37,842人
平成29年度	43,201人
平成30年度	39,126人
令和元年度	32,124人

令和2年度 15,698人（10月現在）

イ 県西地域活性化プロジェクトにおけるあしがり郷瀬戸屋敷

県西地域活性化プロジェクトは、県西地域の地域資源を生かし、「未病の改善」をキーワードに新たな活力を生み出すことで、県西地域を「未病の戦略的エリア」とし、地域一体となって活性化の取組を推進するもので、平成26年3月に策定された。

あしがり郷瀬戸屋敷は、「未病いやしの里の駅」集いの駅に登録されている。県西地域活性化プロジェクトにおける大学連携事業では、東京農業大学との連携により講座を開催し、未病改善に取り組んだ。

(3) 主な質疑応答

**質 疑** 私たちが子供の頃に暮らしていたような屋敷が現在まで保存され、地域交流の拠点とされていることは、県西地域を活性化する観点からもよい取組と思う。具体的には、どのような地域活動に利用されるのか。

**応 答** 本日も隣の大部屋で絵を描くサークルの方々が集まって活動している。また、ひなまつりや端午の節句などの年中行事を設定して、地域の皆様やボランティア団体の方々が活動できるようにしている。

**質 疑** 東京農業大学と連携して未病改善に取り組んだとのことだが、具体的にどのようなことをしたのか。

**応 答** 瀬戸屋敷を会場として、地域住民を対象に、瀬戸酒造店や県立吉田島高等学校の協力の下、発酵食品による健康効果や、地域特産品の開発につなげる講座を実施した。例えば、第1回発酵教室は、こちらの土蔵にて、はっこう大作戦、として開催し、こうじのはなし～甘酒と味噌と塩麴、を題目に、東京農業大学の先生に話していただいた。

**質 疑** 商品化された発酵食品はあるか。

**応 答** ここはもともと酒造であるため、発酵食品の販売に適している。瀬戸屋敷内にあるcafé hacco（カフェハッコ）では、例えば、瀬戸酒造店のこうじを使用した、食べる甘酒を販売している。こうじは発酵時間や温度設定で味が変わるが、この食べる甘酒は58度で8時間保温するという調理方法である。これは先ほどの、はっこう大作戦、に参加された地域住民の声を元に決めた調理方法である。

（※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。）



#### (4) 調査結果

あしがり郷瀬戸屋敷における地域活性化の取組を視察することにより、地域交流の活動拠点としての活用や、地元住民と大学等との連携による未病の改善への取組を確認することができた。

以上のように、あしがり郷瀬戸屋敷における県西地域の活性化に関する取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。



## 4 道の駅足柄・金太郎のふるさと

### (1) 調査目的

道の駅足柄・金太郎のふるさとは、南足柄市が整備した道の駅である。施設内では、地域農産物等の直売や、地域の名産である相州牛の牛肉を使ったローストビーフ丼を食堂で提供するなど、令和2年6月26日の開業以来、目標を上回る売上を達成するなど、県西地域の新たなにぎわいが生まれている。

県では、県西地域活性化プロジェクト推進事業（県と市町が共同して策定した地域再生計画）により、南足柄市が交付を受けた地方創生推進交付金を活用して新たな交流施設等の整備事業を実施している。本施設は、県西地域活性化プロジェクトの「未病いやしの里の駅」への登録施設である。

県西地域の活性化を図る地域の取組について、本施設を視察することで委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

#### ア 施設の概要

##### ・設置までの経緯

平成23年	南足柄市長公約「大型直売交流センター」
平成25年3月	(仮称)大型直売交流センター基本計画の策定
平成26年9月	地域振興拠点施設「(仮称)大型直売交流センター」(道の駅)基本計画策定
平成27年3月	(仮称)道の駅 金太郎のふるさと 事業実施計画策定
平成29年12月	神奈川県道の駅支援検討会議設置
平成30年10月	南足柄市地域振興拠点施設条例制定
令和2年3月	道の駅足柄・金太郎のふるさと登録
令和2年6月	グランドオープン

#### イ 県西地域活性化プロジェクトにおける道の駅足柄・金太郎のふるさと

県西地域活性化プロジェクトは、県西地域の地域資源を生かし、「未病の改善」をキーワードに新たな活力を生み出すことで、県西地域を「未病の戦略的エリア」とし、地域一体となって活性化の取組を推進するもので、平成26年3月に策定された。具体的には、未病改善によいとされる県西野菜と果物の試食会等を行い、未病改善の理解促進に取り組んでいる。

県では、かながわ「道の駅」市町村支援制度を制定し、道の駅の設置・運営に取り組む市町村を支援し、道路をより使いやすくする取組を推進している。この取組の一環として、市町村が気軽に相談ができる「道の駅相談窓口」や、県の関係部局が助言・指導を行う「道の駅支援検討会議」の設置など、道の駅実現に向けて、市町村を支援している。

令和2年8月現在で、県内には四つの道の駅（道の駅箱根峠、道の駅山北、

道の駅清川、道の駅足柄・金太郎のふるさと)がある。

(3) 主な質疑応答

**質 疑** 本日は平日だが大変多くの方でにぎわっているし、報道番組等でこの道の駅が紹介されているのも見かけるが、どういったことが理由で繁盛していると考えているか。

**応 答** 新型コロナウイルス感染症の影響で、あまり遠出はできないが、マイカーで近場に行くという世相を反映しているとは思う。ただ、南足柄産の相州牛や、やまゆりポークを使用したオリジナルグルメ、足柄茶を使用したスイーツなど、ここでしか食べられないおいしいものの提供や、物販施設でも、ここでしか購入できないオリジナル商品を販売していることから、そういった点で多くの方に来ていただいていると思う。

**質 疑** 交流施設の建物をはじめ、全体として木材が多く使用されているが、県内産の木材を使用しているのか。

**応 答** 交流施設の天井構造材、飲食施設のテーブル天板、お手洗いの表示板などに地元産の杉を使用している。これは、森林環境譲与税を活用したものである。

**質 疑** 先ほど調査を行った開成町のあしがり郷瀬戸屋敷から、車で5分程度と、非常に近い距離にある。車で訪問する方々が、周辺の施設等を回遊できるような取組はしているのか。

**応 答** 南足柄市では、南足柄市地域振興拠点施設整備計画の中で、県西地域のゲートウェイとして、また、産業の振興とにぎわいの創出による地域経済の好循環の拠点として、この道の駅を位置づけている。

さらには、県の県西地域活性化プロジェクトの未病の駅としても、大井町の未病バレービオトピアや、開成町のあしがり郷瀬戸屋敷等、周辺施設と連携しており、未病でつなぐ地域の活性化に貢献するよう、取組を進めている。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

道の駅足柄・金太郎のふるさとにおける地域活性化の取組を視察することにより、オリジナル商品の活用によるにぎわいの創出や、県西地域活性化プロジェクトとの連携による未病の改善への取組を確認することができた。

以上のように、道の駅足柄・金太郎のふるさとにおける県西地域の活性化に関する取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

- 1 随 行 者 小栗副主幹（議会局議事課）、吉田主幹（政策局総務室）、  
佐藤副主幹（総務局総務室）
  
- 2 調査箇所側出席者
  - （1）神奈川県分庁舎（新分庁舎）

和泉総務局長、岡本財産経営部長、村島同部参事（本庁庁舎再編整備担当）、同課担当者、大河原施設整備課長、山田庁舎管理課長、高野政策局企画調整担当課長、松尾総務局企画調整担当課長
  
  - （2）あしがり郷 瀬戸屋敷  
熊澤開成町産業振興課長、高澤政策局長、有泉自治振興部長、塚本地域活性化担当課長、高野政策局企画調整担当課長、松尾総務局企画調整担当課長
  
  - （3）道の駅足柄・金太郎のふるさと  
内田南足柄市産業振興課道の駅推進担当課長、高澤政策局長、有泉自治振興部長、塚本地域活性化担当課長、高野政策局企画調整担当課長、松尾総務局企画調整担当課長